

1. 明 2. 元 3. 唐 4. 宋

1. 貴族や寺社などの権力者に税を納める代わりに、商品の販売や製造の独占権を認められた。
2. 農村で生産された特産品を江戸や大坂の間屋へ運ぶために、主要な街道の宿場を管理・運営した。
3. 幕府から与えられた朱印状を携帯し、東南アジア諸国との間で行われた大規模な海外貿易を独占した。
4. 鎖国体制のもとで、長崎の出島においてオランダ商人と直接交渉を行う権利を江戸幕府から与えられた。

1. 有力守護大名である三家が交代で就くことで、諸大名の不満を抑えつつ幕政に関わらせた。	2. 将軍直属の軍事組織の長が兼任することで、戦時体制を維持しやすい仕組みにした。	3. 天皇から任命された貴族が武家を統制することで、公家と武家の融和を図った。	4. 特定の有力な一族が独占的に世襲することで、将軍の権力を完全に代行させた。
--	---	---	---

1. オランダ船の来航を特定の港に制限し、貿易を幕府の管理下に置くため
2. 正式な貿易船と、当時沿岸部で活動していた倭寇などの海賊船を区別するため
3. キリスト教の宣教師が貿易船に紛れて入国するのを防ぐため
4. ポルトガル船との交易を奨励し、南蛮文化を積極的に取り入れるため

1. 中繼貿易 2. 朝貢貿易 3. 勘合貿易 4. 朱印船貿易

(2024年 岡山県公立入試 類似)

1. キリスト教の布教とともにヨーロッパの自治都市の考え方が伝わり、各地で領主に抵抗する運動が広まったため。	2. 元寇による防衛費の負担が増大したことで、生活に困窮した武士や農民が幕府の倒幕を目的として蜂起したため。	3. 応仁の乱によって幕府や守護の権威が衰え、自分たちの力で地域を守り、平和を維持する必要が生じたため。	4. 幕府が「建武式目」を制定し、地方の国人や百姓に対して、自ら政治を行う権利を正式に認めたため。
--	--	--	---

1. 元（モンゴル帝国）の侵攻を退けた後、博多に防塁を築いて防衛を強化した。	2. 分国法を制定して守護大名の権限を制限し、幕府の直轄領を全国に拡大した。	3. 明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、朝貢の形式をとって貿易を行った。	4. 関所を撤廃して楽市・楽座を導入し、自由な商工業の発展を促した。
--	--	---	------------------------------------

1. 観応の擾乱 2. 応仁の乱 3. 承久の乱 4. 島原・天草一揆

1. キリスト教の広まりを警戒し、欧州諸国との貿易を平戸と長崎の二港に制限した	2. 琉球王国を仲介役として、東南アジア諸国との間で中継貿易を盛んに行った	3. 元軍による二度にわたる侵攻を退けた後、中国大陸との交流を一時中断した	4. 明の皇帝から「日本国王」に封じられ、朝貢の形式をとる勘合貿易を開始した
---	---------------------------------------	---------------------------------------	--

1. 大陸との貿易による富を背景に、武家と公家の文化が融合した金箔を多用する豪華な様式で建立された。
2. 戦国大名が自らの権力を誇示するため、天守閣を備えた壮大な城郭建築が各地に築かれた。
3. 鎌倉幕府の成立に伴い、質実剛健な武士の気風を象徴する重層的な寺院建築が全国に広まった。
4. 応仁の乱などの動乱が続く中、政治から退いた足利義政が隠居所として営み、自身の精神性を反映させた。

1. 江戸幕府によって組織され、犯罪の防止や年貢の納入について農民に連帯責任を負わせた。
2. 寄合を開いて独自の掟を定め、領主に対して年貢をまとめて納めるなどの自治を行った。
3. 幕府から販売の独占権を認められる代わりに、税を納める商工業者の組織として活動した。
4. 有力な農民が特権的な地位を得て、農村における商品の流通や金融を独占的に支配した。

1. 座 2. 五人組 3. 株仲間 4. 惣

1. 座の商人 2. 問丸 3. 飛脚 4. 馬借